

ユネスコ世界会議について

1. 概要

2005 年から始まった ESD の 10 年の中間年を迎えるにあたり、ユネスコ、ドイツ教育省、ドイツユネスコ国内委員会の共催により、下記の 4 つの目的のため、世界的規模での ESD に関する対話の場を提供。

2. 目的

(1) 全ての教育及び質の教育に ESD が果たす重要な貢献

ESD の教育全般への関連性と、教育の質改善のための ESD の重要性や、ESD を教育の中心とするための方法等について議論。

(2) ESD の取組についての国際的な情報交換

世界中の ESD に関する経験や成功事例等を共有する機会を提供するとともに、ESD が異なる地域や国家等、様々なニーズに応えうるかとの疑問にも言及する予定。

(3) DESD の実施に関するこれまでの実績の検証

これまでの取組について検証し、障壁となった事項や教訓について議論。

(4) 今後の戦略の策定

DESD の後半 5 年間に ESD を効果的に推進するため、現在の持続可能な発展に関する問題とそれに対する教育の責任等に関する議論を通じ、今後の戦略を策定。

3. 会議の構成

ハイレベルセッション、本会合、ワークショップ、サイドイベント、エクスカーション、優良事例の展示で構成される予定。

4. 参加者

ESD のステークホルダーとして、以下の領域から 700 名の参加を予定。

- ・ ユネスコ加盟国から選出された代表者
- ・ 会議運営者により招へいされる代表及び専門家
- ・ 2008 年 10 月に開始予定の一般応募プロセスから選ばれる参加者

(参考)

ユネスコ世界会議（仮訳）

持続発展教育について ― 国連の 10 年の後半に向けた動き

3 月 31 日～4 月 2 日 ボン（ドイツ）

国連持続発展教育の 10 年 (DESD, 2005-2014) は、持続可能な発展の原則と価値と実行を、教育と学習に関する全ての側面へと統合する事を望む、世界規模の努力である。このとり組みは、2002 年 12 月の国連総会決議 57/254 で採択された。

DESD が中間点に近づいているにあたって、「ユネスコ世界会議 持続発展教育 ― 国連の 10 年の後半に向けた動き」が、ドイツのボンにおいて 2009 年 3 月 31 日～4 月 2 日に行われる予定である。会議はユネスコ、ドイツ教育省が、ドイツユネスコ国内委員会の共催で行う。

会議は、世界規模での持続発展教育に関する対話と支持のためのプラットフォームを、ユネスコ参加国を代表する全地区と、国連機関、市民組織、青少年、そして民間部門からの約 700 人の参加者を巻き込みながら提供する。

世界会議の目的

持続発展教育についての世界会議は、次の 4 つの目的を追求する。

1. 持続発展教育（ESD）の、全ての教育と質の高い教育の達成への、本質的な貢献

教育のタイプ、レベル、そしてセッティングの全てに関わりを持つ ESD は、持続可能性に底通する理念と原則に基づいた教育と学習へのアプローチである。ESD は人権、貧困撲滅、持続可能な生活、気候変動、ジェンダー、企業の社会的責任、固有文化の保護のような、持続可能性の鍵となる事柄を含むので、質の高い教育と学習への包括的なアプローチの構成要素となる。国際化した世界で人類が直面した問題を扱う事によって、ESD は今後の全教育の目的と内容を形作るだろう。事実 ESD は、未来のための教育なのである。

世界会議では、「万人のための教育（EFA）」とミレニアム開発目標を到達しようとする一方で、ESD の教育全般への関連性と教育の質を改善するために ESD を行う事の重要性を引き出す予定である。さらに会議では、ESD を教育の傍流から中心へとさらに推進させるための方法を、模索する予定である。

2. ESD の国際的な交流を促進

ESD を含め、全ての持続可能な発展のためのプログラムは、「文化」を根源的な重要性とした「環境」、「社会」、「経済」という持続可能性の 3 つの側面を考慮しなくてはならない。ESD は持続可能性への地域の文脈に結びついているので、世界中で様々な形態をとりうる。

世界会議は、世界中の ESD に関する経験、成功事例、そして視野を共有する素晴らしい機会を提供するだろう。ESD がどのように異なる地域や国家、グローバルやローカルなレベルのニーズにも答えられるかという疑問にも言及する予定である。また、世界中からの良い事例を共有する事は、ESD の現実味のあるアプローチを明らかにするために重要な役割を担うだろう。

3. DESD を振り返る

ユネスコによって近年行われた、最初の調査・評価によるグローバルとリージョナルなレポートと同様に、経験的な結果は、「10 年」の実行に関する議論にインプットを与える。これまでの成功は歓迎を持って発表され、遭遇した障壁と学習した教訓は議論される予定である。

4. 今後の戦略を策定

これまでに実行された事を分析し、過去と今起こっている挑戦と機会を明らかにする事は、後半期における「10 年」のさらなる実行を確信させる、新しい戦略の開発を導く。これからの戦略は特に、教育方針、計画そしてプログラムへの ESD の更なる取り込み、より多くの ESD 資源の流動化、実効性の高い（特に南北・南南協力の）パートナーシップの確立、そしてこれまでの「10 年」の実行に含まれていなかったステークホルダーの巻き込みを含む事になるだろう。今起こっている持続可能な発展に関する問題と、それらへの教育の責任が、この文脈の中で議論されるだろう。

会議のプログラムと準備

世界会議は、ハイレベルセグメント、プレナリーとワークショップのセッション、サイドイベント、エクスカッション、そして成功事例の展示で構成される予定である。それぞれの要素は4つの会議の目的に貢献するべきである。国際顧問委員会が会議運営者と共にプログラムの開発の作業を行っている。ワークショップのテーマは2008年秋にアナウンスされる予定である。

世界会議の準備に向けて行われる ESD に関する会議と会合は、ボンでの討議の準備のために、その会議事項において4つの目的に言及する事が望まれる。ボンでの会議の結果は、2009年4月以降に行われる ESD 関連イベントで取り上げられる事が期待されている。

参加登録

DESD の本質に関係するステークホルダーとして 700 人の参加が、以下のような領域から望まれる。

- ・ ユネスコ参加国から選出された代表
- ・ 会議運営者によって招聘される、特に市民団体からの、代表と個人単位の専門家
- ・ 2008 年 10 月開始の、一般応募のオープンプロセスから選ばれる参加者